

コアジサシ（カモメ科） 全長24センチ

繁殖地が激減

コアジサシの本来の繁殖環境である河川敷や中洲の砂礫地、および海岸の砂浜などの減少が著しく、開発途中の造成地など代替環境で繁殖する場面が多く見られるようになった。

県内では海岸線の砂浜、河川の中洲や川原などの整備や開発などで繁殖地に大型機械が出入りするようになった。そのため、地面に産卵するコアジサシには脅威となり生存率低下の原因となっている。繁殖を阻害する要因として、繁殖コロニーへ立ち入るカメラマンや四輪駆動車、釣り人、サーファー、川遊び、海水浴などレクリエーションを楽しむ人々による影響も看過できない状況となっている。



海鳥であり、脚には水掻きが。

大仙市は貴重な繁殖地

県内の分布は大館市、能代市、三種町、秋田市、男鹿市、潟上市、大潟村、大仙市、雄物川と子吉川河口などで確認されている。

日本野鳥の会秋田県支部による観察報告によると、今年繁殖しているのは大仙市の雄物川だけと言われる。雄物川中洲に飛来したコアジサシは、たった2つがい。

7月上旬、県内に何度か大雨注意報が発令されたが、主に県北地方であったため大事には至りませんでした。



ゆっくりと羽ばたいているが、スピードは速い。



抱卵中のメスに新鮮な魚を運んできた。

自然災害には勝てなかった

暑い照りの中、つがいは抱卵を交代しながら甲斐甲斐しく卵を温めていた。上空にトビが近づくと2羽が直ぐに飛び立った。自分の数倍も大きい敵に対してひるむことなく、後ろから上空から急接近し、ついに追い払ってしまった。2つがいの巣は10数メートル離れていて、カラスも近づかせないほどの防御態勢である。

7月19日夜半から20日にかけての大雨により、雄物川は一気に1メートル50センチも上昇し、中洲はあえなく水没した。もう少しで孵化したのに、濁流を眺めながらため息が出てしまった。やはり繁殖はなかなか難しいことです。

環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ種、秋田県版レッドデータブック（2016年）で、絶滅危惧ⅠA類に指定される希少種のコアジサシ。昨年に続いて繁殖はかなわなかった。懲りずに来年も挑戦してほしいものだ。



巣から立ち上がったら、左脚の両側に卵が見えた。周りの小石とそっくりなので区別が付きません。



あまりに暑かったのか、水浴びを始めた。